



「見え方」を意識した  
プロショップコーディネイト

もしリチャード・ハーマンがこの  
クルマを見たらなんと言つただろう。  
人気のジャーマンチューナー、ハ  
マンモータースポーツの創始者であ  
った彼はすでにこの世を去つたが、  
このM4にはきっと大喜びをするに  
違ひない。そんな妄想を思い浮かべ  
てしまったほど。T'sクラブの仕立  
てたM4はハーマンを軸にしたメイ  
クながら、ひとつ抜けた存在感のあ  
る仕上がりを見せてくれた。

まずはそのオースチン・イエロー  
というボディカラーに大きなイメ  
ジが牽引されていることがわかる。  
最大の面積を占めるからこそ、ボデ  
イカラーの選択は慎重に行いたいも  
の。実際にこの個体を入手する際には  
かなりの時間を要したという。甚  
やかなボディを整えるのは、ハーマ  
ンのエアロバーツ。ホイールも同様  
にハーマン・アニバーサリーEVO

をチョイスしているらしく、ぱっと見  
は正統なチューナーズスタイルを構  
築。しかし、他ならぬ魅力を放つ  
のは、入念にバランスをとった  
カラーリングによるコーディネイト  
が効いているからだろう。

例えば、リップは天面のみをグロ  
ーブブラックとして、特徴的なボディ  
カラーが際立つように差し分けられ  
ている。一方ディフェューザーは、バ  
ーティカルフインそのものはカーボ  
ン、天面と下面はグローブブラック、  
後端はオースティニエローと、非  
常に細かい色の配置が行われている。  
ホイールでも同様のカラーコンビ  
ネーションは結構。コンケーブスポ

## T's Club BMW M4

本国発表のCGを忠実に再現  
**丁寧な配色が生む  
絶妙なる存在感**

端正なワンブランドのチューナーズスタイルに、  
プラスαのコーディネイトが施されたM4を紹介しよう。  
色とバーチョイス、そしてセッティングという  
プロショップならではのスタイリングの妙味を紐解く

問屋 T'sクラブ TEL.079-437-9224 [www.ts-club.com](http://www.ts-club.com)  
写真 岩井浩志 文豪 梶山和

### SPEC

エクステリア  
ハーマンモータースポーツ・フロントリップスポイラー／リアアンダースポイラー  
BMW/フォーマンス・Fグリル／トランクspoiler／ドアミラーカバー  
塗装  
KW車高調Ver.3  
ホイール  
ハーマンモータースポーツ・アニバーサリーEVO (9:11×21)  
マフラー  
アーミトリクス・エキゾーストシステム



↑ディフューザーのカラーコーデを始めた。リップ部分に天面をクロスブラックに。バーティカルフィンはカーボンとして、Mパフォーマンスのトランクスピーカーとリンク。下面は天面に替えてクロスブラックにすることで、チタンフィニッシュのエキゾーストが映えるという仕掛け



←フェンダー、タイヤ、リム、スポーク、そして車のフランジと、色のコンビネーションが交互に続いていく。運行感の演出は、コンケーブスポークと相まって効果絶大

ークを際立たせるように、リム端にはホーティカラーを差し、さらにスポーツの奥、フランジ部分にも同色を配している。製作に当たっては非常にやうかいな仕様なので一度とやりたくない、という声も聞かれたそうだが、このコーデ、ひとつも真似したいという声がオーダーが出来てもおかしくはない。21インチチという大径との相乗効果で、運行感たっぷりの足元を演出している。浮き立つ色と引き締める色。双方が影響しあってこそ成立する、というわけだ。

ちなみにこの配色の元ネタは、ハマノがM4のプロジェクトを初めて発表したときに使用されていたコンピュータグラフィックス。その画像がトヨタクラフトの瀬井サンの目に焼き付いてしまった。元々ハーマン好んでお店でも發度となくハーマンのコンプリートスタイルを造りつきただけに、M4は絶対に東車で再現しなければならないと思ったそうだ。

CGと違うのは、グリル、ミラー、リアspoilerの3点がMパフォーマンス車に変更されていること。ボトムラインはスピード感のあるハーマンで、そしてエアストライインには品質の高いMパフォーマンスをそれ配置している。遠近感、必要なものを配することで、車なるワームマイクロディテールでは出せない深い味わいが生まれているのは事実。好きなブランドに輪足を置きながら、プロショットらしい技とバーツショットを織り交ぜてコンプリートしたこのM4。成り立ち自体はシンプルであるが、各所にしっかりとスタイルが利いた印象深い一台だ。



↓底地のミラーベースに、カーボンのカバーを配す。同色系だが、素材の違いでアイポイントを作る



↑リップの裏面は影が落ちているのではなく、ペイントで黒に落としている。こうすることで、リップの輪郭が際立ってくる。黒ありの黒を使ったところも面白い

**縁取りの効果を使うことで  
膨張色をコントロールする**

